



令和2年度 村上中等教育学校第18期生
令和2年9月11日発行 第13号
題字：伊藤美咲さん（2-1）

テストが近づきました

来週の17、18日にある前期期末考査が近づいてきました。テスト勉強は計画的に進んでいるでしょうか。テストまでどのように過ごすのか、もう一度計画表を確認して、計画を修正し、有効活用するべくしっかりと準備をしていきましょう。また、テストだけではなく、課題等の提出物を出すことがとても大切です。きちんと課題に取り組む人はおのずと力がついています。普段は学校から与えられた課題に取り組んでいますが、テスト勉強では、それぞれが自分の目指すゴールに向かって課題を考え、どのようにテストまで準備するかを考える自主性が重要になってきます。勉強は楽しく学ぶ、仲良く学習するというのも大切ですが、本来、厳しさや苦しさが伴うものではないでしょうか。だからこそ、目標が達成されたときの喜びは大きいものだと思います。そしてそのような経験が、今後の大学入試に向けた勉強にもつながってくるのではないかと思います。自分一人で、歯を食いしばってでも頑張る、という姿勢がなければ、“何か”を身につけるなんてことはできないのです。皆さんは今、どんな勉強をしていますか？歯を食いしばって頑張っていますか？



テストまであと5日、最後の追い込みをかけましょう！

道徳の授業から 戦争を取材する

世界の戦場を取材するジャーナリスト山本美香さんが、自分の仕事や存在に悩んでいたときに取材した、息子を亡くした父親の言葉をきっかけに自分の仕事に対する使命に気づきます。山本さんはシリアで銃撃され亡くなるまで、紛争地や被災地に飛び込み、女性や子供など、弱い立場に置かれている人々の存在を世界に伝え続けました。授業では、映像を交えながら彼女の生き方について考えました。

<感想>

- ・自分が進むべき道を信じてどんなに大変なことでも諦めずに立ち向かっていてすごいと思った。
- ・山本さんのように思いやりのある強い女性になりたいと思いました。差別や戦争がなくなってほしいと思いました。
- ・大変なこと、つらいことで悩んで諦めてしまうかもしれないけど、ずっと続ける、頑張ることでやっている意味ややりがいを見つけることができる。
- ・山本さんは、同じジャーナリストの佐藤さんとの出会いと一緒に仕事を続けていく中で弱い女性や子供たちを多く取材し、世界中に戦争の怖さや恐ろしさを伝えたかったのではないかと思います。今回の「戦争を取材する」を読んで、改めて平和な社会・平和な世界の大切さというものを感ずることができました。
- ・被害にあった人々の本当の声を世界に伝えるジャーナリストという仕事はすごいと思った。